

# めぐみイエス・キリスト教会

2022年2月13日(日)第二主日礼拝  
週報「通算第595号」



## 2022年標題聖句

### 第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌358「神なく望みなく」 p. 572

【交読文】 No.16 詩篇第42篇 p. 891

【賛美Ⅱ】 新聖歌428「キリストには代えられません」p. 690

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.20「神の国となる為に」

【聖書朗読】 使徒の働き14章19節～28節(新約p. 264上段)

【礼拝説教】 《第一次伝道旅行を終えて》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ●ポイント1.「パウロの石打ちの刑」とは？

※使徒の働き7章58節・8章1節前「ステパノの殉教」 (新約p.247下段)

7:58 そして彼を町の外に追い出して、石を投げつけた。証人たちは、自分たちの上着をサウロという青年の足もとに置いた。

8:1 サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。

※第Ⅱコリント12章1節～2節「使徒パウロの体験から」(新約p.370下段)

12:1 私は誇らずにはいられません。誇っても無益ですが、主の幻と啓示の話に入りましょう。

12:2 私はキリストにある一人の人を知っています。この人は十四年前に、第三の天にまで引き上げられました。肉体のままであったのか、私は知りません。肉体を離れてであったのか、それも知りません。神がご存じです。

## ※第 I コリント9章1節～2節「使徒パウロの告白から」 (新約p.338上段)

9:1 私には自由がないのですか。私は使徒ではないのですか。私は私たちの主イエスを見なかったのですか。あなたがたは、主にあって私の働きの実ではありませんか。

9:2 たとえ私がほかの人々に対しては使徒でなくても、少なくともあなたがたに対しては使徒です。あなたがたは、私が主にあって使徒であることの証印です。

### ●ポイント2.「デルベ、ペルゲ、アタリヤ」とは？

■**デルベ** 小アジアのルカオニヤ南東部に古くからあった町。ガイオはこの地の出身者。

■**ペルゲ(ペルガ)** 小アジア南部のパンフリヤ地方の首都。海岸から12キロほど内陸の平原にあるが、船はアタリヤからケストロス川をさかのぼって東岸に入港できる。

■**アタリヤ**「アッタロスの町」という意味。小アジアの南西部、ローマパンフリヤ州の海岸の町。この町は、紀元前145年頃ペルガモの王アッタロス2世が、王国の南部の海港として設立し、自分の名前を命名した。

### ●ポイント3.「弟子たちの心を強め、信仰に留まること」とは？

## ※ヨハネの福音書16章33節「主イエスの約束の言葉」 (新約p.219下段)

16:33「これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたが私にあって平安を得るためです。世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。私はすでに世に勝ちました。」

## ※ヨハネの福音書15章4節～5節「私に留まりなさい」 (新約p.215下段)

15:4「私に留まりなさい。私もあなたがたの中に留まります。枝がぶどうの木に留まっていなければ、自分では実を結ぶことができないのと同じように、あなたがたも私に留まっていなければ、実を結ぶことはできません。

15:5 私はぶどうの木、あなたがたは枝です。人が私に留まり、私もその人とどまっているなら、その人は多くの実を結びます。私を離れては、あなたがたは何もすることができないのです。」

## ◎先週の礼拝メッセージの概要【リステラにおいて】

《使徒の働きに戻ります。パウロとバルナバはイコニオンから、リカオニアの町であるリステラにやって来ました。リステラとは、小アジア南部、南ガラテヤのルカオニヤ地方の町で、イコニオムの南西約40キロにあります。

町は丘の上にあり、肥沃な平原に囲まれ、小さな2本の川が町の近くを流れていました。この頃の町の人口構成は、少数の軍人貴族のローマ人が支配階級を占め、教養のあるギリシャ人が第2の階層をなし、大半は一般の無教養なルカオニヤ人が占めていたとあります。

さて、リステラの門の広場に一人の物乞いの足の不自由な人が置かれていました。この時、パウロとバルナバは、集まって来た群衆に「神の言葉」を語っていたのです。その人は、パウロの語るみ言葉に聞き入っていました。パウロは彼をじっと見つめ、癒されるにふさわしい信仰があることを知って彼に命じたのです。「自分の足で、まっすぐに立ちなさい」と。

ところで、かつてエルサレムの「美しの門」で、シモン・ペテロとヨハネによって、生まれつき足の不自由な人がいやされたことがあったのです。このことによって、エルサレム中に大きなリバイバルが起こりました。

さて、その奇跡を見た群衆は、声を張り上げて、「神々が人間の姿をとって、私たちの所にお下りになった」と、門の側にあるゼウス神殿の祭司と共に、雄牛と花輪を持って来て、いけにえを献げようとしたのです。パウロとバルナバは、衣を裂き、何とかしてその行ないをやめさせます。

しかし、この奇跡と神の言葉によって、多くの魂が救われたのです。特に、やがてパウロの愛弟子となったテモテの祖母ロイスと母ユニケが救われることになるのです。さてリステラの人々は、何を誤解したのでしょうか。それは、見えないものよりも、見えるものに目を留めたと言う事です。大切な事は、パウロとバルナバの背後におられる主イエス様と聖霊なのです。この後、二人はかつてペテロとヨハネが最高議会において弁明したように、誰の御名によって奇跡が起こったのか、教えたと思われまます。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は2月20日(日)教会にて行ないます。また5月29日(日)・7月31日(日)・10月30日(日)の第五主日は、特別メッセージを語ります。

